

クイックガイド

スピーカーから音を出す

付属のスピーカーを使って、音を出してみましょう。

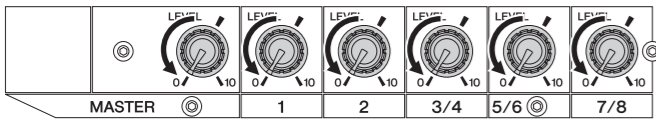
1 ミキサーにスピーカーや楽器などを接続します

付属のスピーカー(300S)をSPEAKER端子に接続してください。マイクや楽器などの外部機器を入力端子に接続します。接続例を参照してください。

! 他機器(マイクも含む)と接続する場合は、すべての機器の電源を切った状態で行なってください。また電源を入れたり切ったりするときは、必ずすべての機器の音量(ボリューム)を最小にしてください。

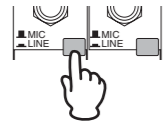
NOTE: エレキギターやエレキベースなどを接続する場合は、DI(ダイレクトボックス)、プリアンプ(ギターアンプ)、アンプシミュレーターなどを経由してミキサーに接続することをおすすめします。

2 ミキサーのLEVELコントロール、MASTER LEVELコントロールを“0”にします



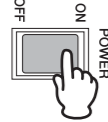
3 接続したチャンネルのMIC/LINEスイッチをMIC()またはLINE()に設定します

マイクなどのレベルが低い入力信号を接続したチャンネルは、MIC/LINEスイッチをMIC()にします。キーボードやオーディオ機器などのレベルが高い入力信号を接続したチャンネルは、MIC/LINEスイッチをLINE()にします。



4 電源を入れます

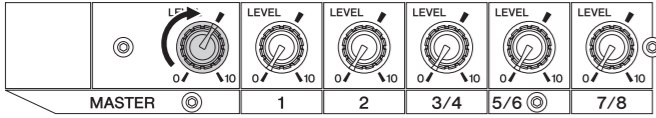
接続した外部機器の電源をすべてONにしたあと、STAGEPAS 150Mのミキサーの電源をONにします。アンプ内蔵スピーカー(パワードスピーカー)を接続している場合は、ミキサーの後に電源をONにします。



! スピーカーから大きなノイズが発生しないようにするため、音源に近い機器から順に電源を入れてください。

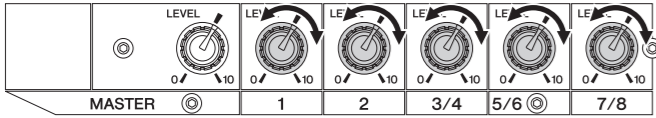
例: 音源(外部機器) → STAGEPAS 150M → (パワードスピーカー)
電源をOFFにするときは、上記の逆の順序になります。

5 MASTER LEVELコントロールを“0”に合わせます



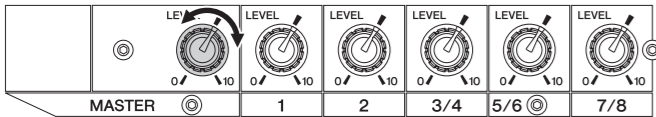
6 楽器やマイクで音を出しながら、各チャンネルのLEVELコントロールを調節します

LEVELメーターの“0”がときどき点灯するように、音が入力されているチャンネルのLEVELコントロールを調節します。



7 MASTER LEVELコントロールで全体の音量を調節します

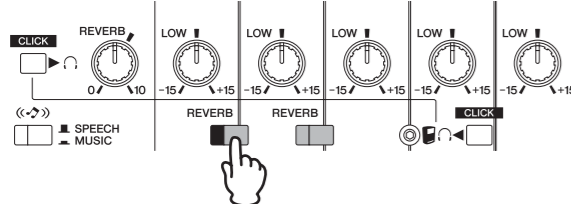
LIMITERインジケーターが長く点灯し続けると、内蔵アンプやスピーカーを破損する原因となりますのでご注意ください。



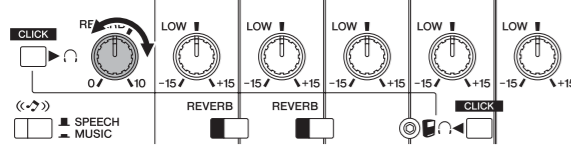
リバーブ(残響音/エコー)をかける

コンサートホールやライブハウスで演奏しているような臨場感を得ることができます。

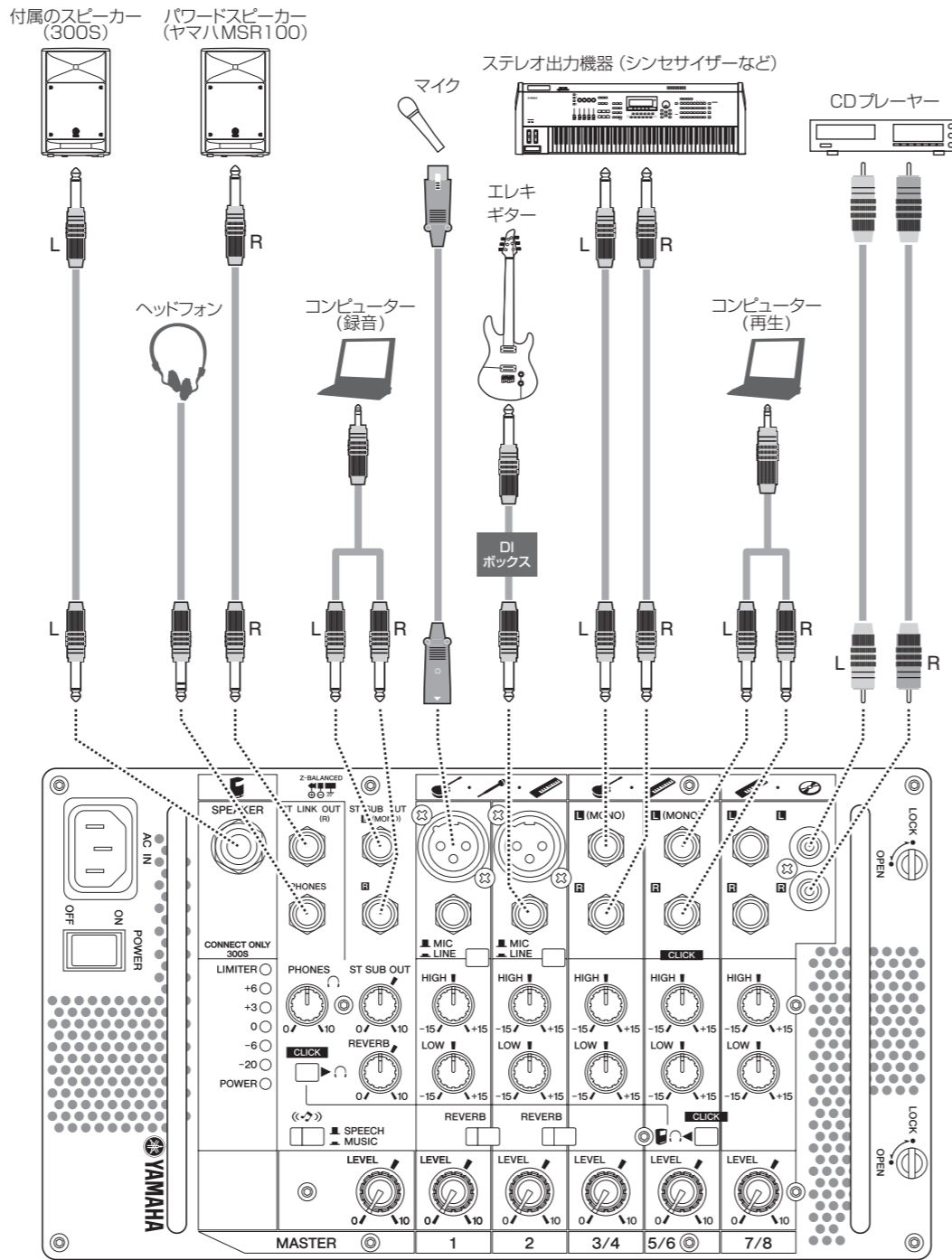
1 リバーブをかけたいチャンネルのREVERBスイッチを押してON()にします



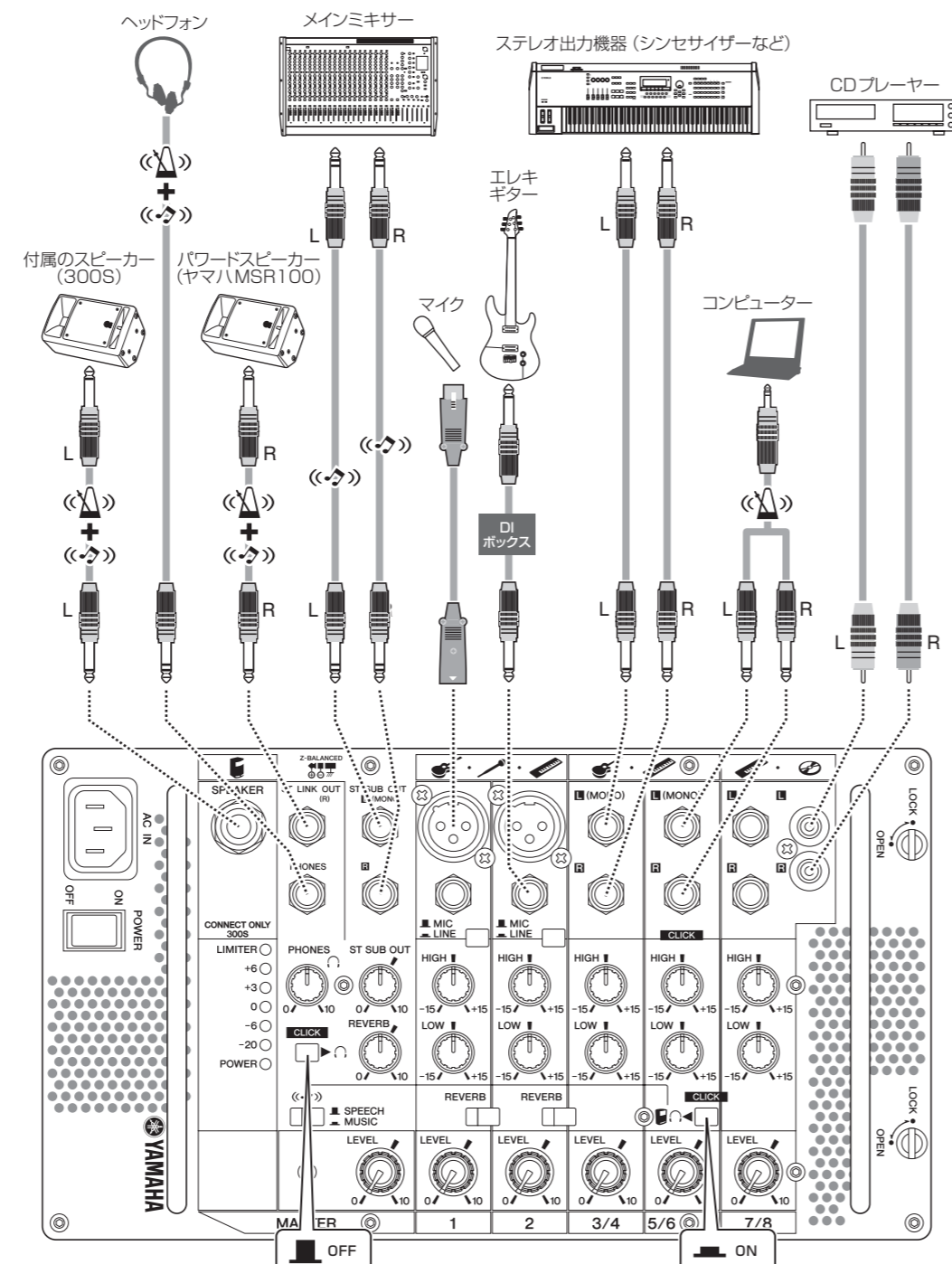
2 REVERBコントロールで全体のリバーブのかかり具合を調節します



接続例1



接続例2



各部の名称と機能

1 AC IN端子

付属の電源コードを接続します。

! 電源コードは付属のものをご使用ください。それ以外のものを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になることがあります。

2 POWERスイッチ

電源のON/OFFを切り替えるスイッチです。

20 LEVELメーター

SPEAKER端子から出力される信号のレベルを表示します。

! LIMITERインジケーターが長い間点滅すると、内蔵のパワーアンプに過大な負荷がかかり、故障の原因になります。

信号の最大入力時に一瞬点灯するレベル以下に、MASTER LEVELコントロールで信号のレベルを下げてください。

21 POWERインジケーター

POWERスイッチをONにすると点灯します。POWERインジケーターが点滅している場合は、保護回路が作動しています。スピーカーケーブルが正しく接続されているか確認したあと、再度電源を入れ直してください。

3 SPEAKER端子

(付属のスピーカー(300S)専用)

チャンネル1から7/8の信号がミックスされてL+R(モノラル)信号が出力されます。出力レベルは、MASTER LEVELコントロールで調節します。付属のスピーカー(300S)のみを接続してください。

4 ST LINK OUT R端子

R信号のみが出力されます。この端子にプラグが挿入されると、SPEAKER端子にはL信号のみが供給されます。出力レベルは、MASTER LEVELコントロールで調節します。スピーカーからステレオで出力する場合に使用します。

5 PHONES端子

チャンネル1から7/8のミックスされた信号が、PHONESコントロールでレベル調整されて出力されます。ヘッドフォンを接続します。

6 ST SUB OUT L(MONO) / R端子

チャンネル1から7/8のミックスされた信号が、ST SUB OUTコントロールでレベル調整されて出力されます。メインミキサーなどを接続します。インピーダンス(バランス回路を採用していますので、バランスケーブルを使用することにより、ケーブルをより長く引き回すことができます)。

7 ST SUB OUTコントロール

ST SUB OUT端子から出力される信号レベルを調節します。

NOTE: MASTER LEVELコントロールの影響は受けません。

8 PHONESコントロール

PHONES端子から出力される信号レベルを調節します。

NOTE: MASTER LEVELコントロールの影響は受けません。

9 チャンネル入力端子(CH 1、2)

ギター、マイク、キーボードなどを接続します。接続した信号レベルに合わせてMIC/LINEスイッチを切り替えてください。XLRタイプの端子のピン配列は、以下のとおりです。(IEC60268規格に基づいています)

1: グラウンド(GND)、2: ホット(+), 3: コールド(-)

10 ステレオチャンネル入力端子(CH3/4、5/6、7/8)

ステレオ信号をL/Rに入力します。シンセサイザーやCDプレーヤーなどステレオ信号で出力される機器を接続します。

NOTE: 一つのステレオチャンネルでフォーン端子とRCAピン端子を同時に使用することはできません。どちらか一方の端子だけをご使用ください。

11 MIC/LINEスイッチ

チャンネル1、2の入力信号のレベルに応じて切り替えます。マイクなどのレベルが低い入力信号を接続したチャンネルは、MIC/LINEスイッチをMIC()にします。キーボードやオーディオ機器などのレベルが高い入力信号を接続したチャンネルは、MIC/LINEスイッチをLINE()にします。

! スピーカー保護のために、パワーアンプ(パワードスピーカー)の電源がOFFの状態では、MIC/LINEスイッチを操作してください。またMASTER LEVELコントロールを最小にしておくことをおすすめします。大音量が出て、聴力障害または機器の損傷になることがあります。

12 EQ(イコライザー)

HIGH
各チャンネルの高音を調節します。右に回すと高音が強調されて、はつきりしたハキリのいいサウンドになります。「キーン」とハウリングする場合は、少し左に回して高音を抑えます。

LOW
各チャンネルの低音を調節します。右に回すと低音が強調されて、響きの深いサウンドになります。「ボーン」とハウリングする場合や音がこもる場合は、少し左に回して低音を抑えます。

18 CLICKスイッチ

(ヘッドフォン用)

チャンネル5/6のCLICKスイッチがONのときに、このスイッチをONにすると、チャンネル5/6に入力されたクリック(メトロノーム)音がPHONES端子からのみ出力されます。

19 SPEECH/MUSICスイッチ

SPEECH/MUSICスイッチをSPEECH()にすると、アナウンスなどのスピーチに適した音質になります。SPEECH/MUSICスイッチをMUSIC()にすると、楽器演奏やライブなどに適した音質になります。MUSIC()にするとSPEECH/MUSICスイッチが、黄色に点灯します。

16 LEVELコントロール

各チャンネルの音量/バランスを調節します。

! ノイズを減らすために、使用しないチャンネルのLEVELコントロールは最小“0”にしておいてください。

17 MASTER LEVELコントロール

SPEAKER端子またはST LINK OUT Rから出力される音量を調節します。LEVELコントロールやEQ(イコライザー)で調節した音色や、各チャンネルの音量バランスを変化させることなく全体の音量だけを調節します。

15 CLICKスイッチ

(ヘッドフォン/スピーカー用)

このスイッチをONにすると、チャンネル5/6に入力されたクリック(メトロノーム)音が、PHONES端子、SPEAKER端子、ST LINK OUT R端子から出力されます。ST SUB OUT端子からは出力されません。演奏者が、シーケンサーやシンセサイザーのクリック音をモニターしたいときにこのスイッチをONにします。

13 REVERBスイッチ

コンサートホールやライブハウスで演奏しているようなリバーブ(残響音/エコー)をかけたい場合は、このREVERBスイッチをON()にします。ONにすると、REVERBスイッチが緑色に点灯します。

14 REVERBコントロール

全体のリバーブ(残響音/エコー)のかかり具合を調節します。リバーブをかけすぎると音がぼやけたり、ハウリングしやすくなりますので、少し抑えて設定します。

